

職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

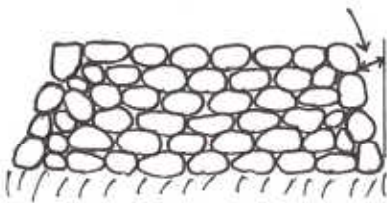
みなさんこんにちわ。寒暖の差も激しく体調を崩しやすい季節です。
体調管理は万全に。

さて今回は、玉石積みについて書きます。今までにも書きましたが今回は、お宮での仕事です。

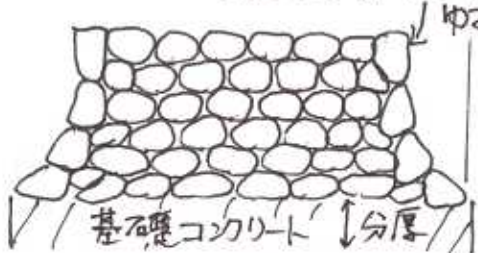
^{おいと}御社の土台となっている部分の玉石積みが崩れていたため積み直しを依頼されました。まず最初に今まで積み上げてあった玉石を一度解体して石積みの基礎となる部分に鉄筋をはわせ分厚くコンクリートを敷き地盤が下がってもびくともしないようにしました。

それから玉石を積み初めましたが、普段なら石積みには勾配と呼ばれるものをつけ、強度がでるようになりますが、そりと呼ばれるものをつけて強度が更に増すように積み上げました。見た感じではお城の石垣の

普段は勾配



今回は、そりがつけられる。



ようになっているなかなか迫力のある石積みになり感激しました。

色々な状況に合わせて石積みには勾配を付けたし、そりを付けたりする昔の知恵はすごい。これも玉石積みの技法の一つ。また成長できた気がします。この調子でどんどん技術を身につけて行きたいです。頑張るぞ!!

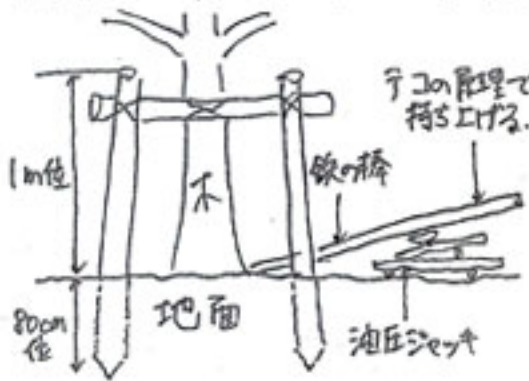
また来月 お会いしましょう。

吉村龍一

職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん、こんにちは。夏らしい暑さになってきました。熱中症など体調を崩さないよう気を付けて下さいね。

さて今回は、樹木を支える支柱の交換について書きます。道路を走っていると木が植わっている所があると思いますがその木の根元あたりに木を支えるための支柱が立ってあると思います。台風や、風が強い時など植木が倒れないよう固定するため古い支柱を抜き取り新しい物に



取り換えるお仕事です。まずは車などを持ち上げる時などに使う油圧ジャッキと呼ばれる道具を使い古い支柱を抜き取ります。支柱が地面の中に80cm位つまさまっているので人の力ではとても引っこ抜く事はできません。他にもクレーンなどを使ったりする事もあります。全部抜き終

わたら次に支柱を打ち込む作業です。打ち込むにも専用の道具を使います。クイ打る君と呼ばれる道具で名前は貧弱そうですが実物は鉄の塊で重く、2人で息を合わせて上下に動かしてクイを打ち込みました。

仕事が終わる頃には、物の平が水豆だらけになり

次の日には全身筋肉痛でとても大変なお仕事でした。まだまだ筋力も体力も未熟なようなので、もともと頑張るどんな仕事でも出来るよう頑張ります。



クイ打る君
筒状になっていて
支柱の上から鉄塊を
打ち込む

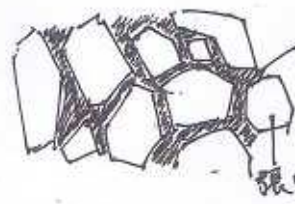
それではまた来目 お会いしましょう!!

吉村 龍一

職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん、こんにちは。気温も上がり5月とは思えないような日もありますね。体調をくずさないよう気を付けて下さい。

さて今回は、石張りについて書きます。以前、岐阜県岡市の鶴匠さんの所で石積みのお仕事をさせて頂きましたが今回の石張りも同じ所でのお仕事です。使用した材料は岐阜県のおがせという所で取れた石も使いました。色はグレーに近い色合いでも固く、たたくとキーンと音が鳴るほどです。この石を細工しながら張り込んで行きましたが、いつもは、石と石との間の目地と呼ばれる部分を狭くするのですが今回は少し荒い感じで仕上げしてほしいとの事で目地の間を広めに仕上げられています。次に目地の所へ水分量を多くしたモルタルを流し込



んで行きました。このモルタルが目地からあふれ出て石の表面に出て来てしまい、石のしわの間に入り込んで


きれいに掃除する事がとび大変でした。ハケを使って目地からあふれ出たモルタルを引き伸ばし、次にスポンジを使ってきれいに拭き取り行く作業の繰り返しで、終わった頃には指の指紋がつるつるになっていました。タイルなどでも同じような目地を仕上げるのですが石張りの方が拭き取るのに苦労する事が良くわかり良い経験を積む事が出来ました。鶴匠 開きまでには庭も完成するので、鶴匠のシーズンが来た。一度は行ってみたいなあ。美味しいアユが食べれるので楽しみです。

また来月 お会いしましょう!!

吉村龍一

新人職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり



どうも、こんにちは。また お会いできて嬉しく思います。今回は、土砂の掘削と砕石敷きならしについての驚きです。現場で初めてショベルカーを使い、土砂の掘削仕事をやらせて頂きました。先輩方は、ショベルカーを自分の手の様に動かして作業しています。しび自分でやってみるとすぐ肩に力が入り、首や肩が非常にこってしまいます。なかなかスムーズにショベルカーのアームを動かす事ができず、物や人に当たらないように気をつけられてしまいとても大変です。掘削中も、地面の中に雨水の排水管や、ガス管などが通っていて ぶちかきしてしまうのではないかとびやびやします。そんな仕事を先輩方は簡単にやってくれてしまいうごいです。やっぱりプロは違うなあ。

掘削が終わり、次に砕石敷きならしをやりました。水系を沢山注いで、地面が均等になっているかたえずチェックをしながら敷きならして行きます。水系とは、ナイロンなどでできている丈夫な糸で、水の流れるがどの方向へ行くかなどを調べる糸としても便利な道具です。私の家の車庫のコンクリートの所は、少し水が溜まる所があり、水系を使いしっかりとチェックしていない事がよくわかります。それにしてもショベルカーの運転は肩がこります。整体へ行ったら先生に「50肩だね」と言われショックでした。まだ30代なのになあ。



また来月

お会いしましょう!!

吉村龍一



新人職人吉村の 見てびっくり、聞いてびっくり

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。いよいよ2008年がスタートしました。伊根さんの所でお世話になり始めてあつという間に新しい年に入り、時が過ぎるスピードの早さに驚いています。

さて今回の驚きは、剪定の仕事をしている時の事です。いつもの年よりも1か月程おくれた剪定仕事のスタートです。少しさかのぼりますが夏の終わり頃の事です。サザンカのメリリ込みをさせて頂いた事がありその時、チャドクガにやられました。体じゅうボロボロになり、かゆくてどうしようもなかったです。病院に行き注射をしてもらい、塗り薬と飲み薬を出して頂きました。私はどうやらチャドクガに対して弱い体のように指でつぶしても平気な人もいると聞き驚きました。12月に入り、チャドクガもいないだろうと思っていたら、チャドクガのぬけがらでまたボロボロになりました。結局、1年中チャドクガにやられてしまうのだと思いきやしいかぎりです。みなさんもチャドクガには、注意して下さい。消毒を行いチャドクガなどの駆除を、消毒をしてチャドクガの駆除をして頂けると、私達も剪定をする時にも助かります。それにしてもチャドクガは、やっかいな虫だなあ。今まで気付きもしなかった自分にとっても驚きです。チャドクガは、恐ろしい。

吉村龍一

また来月

お会いしましょう!!



新人職人吉ねの 見てびっくり 聞いてびっくり



みなさん こんにちは。新年がスタートしました。お体の調子はどうですか。まだまだ寒い日が続きます。カゼなど引かないよう気を付けて下さい。さて今回は、お庭の剪定仕事の際に気づいた点を書きたいと思いましたが、中でも、「お金持ちになる」という事で緑起木としてお庭によく植えられているモクの木と呼ばれている木についてです。1年の間に枝がすごい勢いで伸びており、驚きました。しかも毎年同じような所で枝を落としているのに次から次へと生えて来るすごい生命力のある木だと感心しました。剪定では、この伸び放題に伸びた枝を上から順に切っていくのですが、ところどころに太い枝があり、切るのに握力が必要で大変です。最初は知らずに普通の剪定バサミを使っていたら、バサミ自体がひねってしまい固くて動かなくなってしまいました。枝の強さに驚きです。そして、モクの木には、屋根の高さをこえてしまうほど大きな物も多く、三脚のハジゴではとどかない物もあり、木によじ登って剪定する事があります。高い所なので落ちない様体中に余分な力が入ってしまい下に降りてきた時には、全身がぶるぶると震えて、次の日には筋肉痛です。普段からの運動不足が良く分かります。プロの職人でさえ高い木に登る時には、万全の準備をいれどみます。皆様も、庭木の手入れをする際には十分に気を付けてけがの無い様にして下さい。

吉村龍一


来月 お会いしましょう!!




新人職人 吉村の 見てびっくり 聞いてびっくり


みなさんこんにちは。季節の変わり目です。体調をくずさないよう気を付けて下さいね。

さて今回は、松の剪定について書きたいと思います。松の剪定では、ハサミをほとんど使わず、素手で葉を取っていきます。まのびした芽は、余中で死んだり芽がたくさん出ている所は、二芽残して残りは取ってしまいます。芽と芽の間は大体 60°ぐらいにし、そうすることで次の芽もきれいに
出て剪定もしやすくなっていきます。

今まで気づきもしなかったのですが松に  60° これを素手で取る
も一本一本個性があり、葉の色やかたさなど違いがあります。かたい葉の場合、素手で葉を取るのて爪と指の間に葉がこさって痛く、夜、お風呂に入ると、手に赤いつぶつぶが出てきてとてもひどく痛いです。

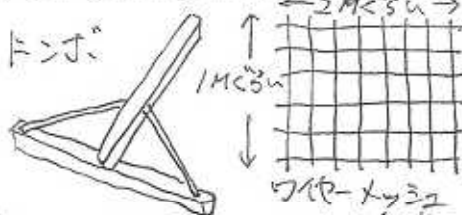
 手の甲全体に赤いつぶつぶ 松は、一本剪定するのに一日かかるほどです。現在では手間もかかり、和風の庭が少なくなり松を植える事がほとんどなくなっているようです。庭木の代表格的な松が庭から消えて行くのはなんとなくさびしい気がします。残念。ちなみに仲根さんの所にある松は、山から取って育てたもので、樹皮がバリバリに割れており、樹形もきれいに整えてあり、すばらしいです。私も理想の松を作れるお腕をみがいて行きたいです。

また来月、お会いしましょう!!

 松の幹皮がバリバリ
吉村龍一

新人職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん こんにちは。とても過ごしやすい日々が続く、嬉しいかぎりです。さて今回は、駐車スペースなどによく使われるコンクリート敷きの金ゴテ仕上げについて書きたいと思います。コンクリートの金ゴテ仕上げというのは、金ゴテと呼ばれる道具を使い、コンクリートを敷いた表面をきれいにならしめて仕上げで行くやり方です。まずは 整地をしてそこに砕石と呼ばれる砕いた石を敷き、コンクリートの厚さを均等にできるようなきれいならしめて機械を使い踏み固めます。そしてワイヤーメッシュと呼ばれる鉄の細い棒を糸網の目状にした補強材を敷きつめ、そこにコンクリートを一輪車で運び入れます。スコップやトンボと呼ばれる道具を使い伸ばして行きます。それからノコと呼ばれるコンクリートの源平のような状態のものを持って浮き上がるせ、それを金ゴテを使いきれいに仕上げで



行きます。見てみると簡単そうに見えるが、やってみるとなかなか平らにならずにゴボコしてしまい難しいです。今まで知らなかったのですが、コンクリートは季節によっても乾くスピードが違い、仕上げで行くスピードも違います。冬は遅く、夏はとても早いです。それから木の量や平気など様々な事が関与し、とても繊細な作業なんだなあと感じました。コンクリートの金ゴテ仕上げは、良くてある仕事なので早く身に付けて行きたいと思います。みなさんもう一度挑戦してみれば？

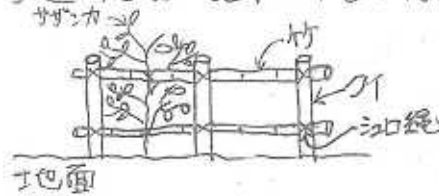
◎元後の電気がめいせいです。感謝です
秋期お会いしましょう!! 吉村 龍一

新人職人吉村の



見てびっくり聞いてびっくり

皆さん、こんにちは。雨の多い季節になって来ました。気持ちは晴れが
しとした気でのりまりたいです。さて今回は、生垣作りの仕事をさせて頂い
て時の事を蓄えたいと思います。生垣にする植物は、サザンカを使いまし
た。すは、木のクイを2m間隔でクイ打ち様と呼ばれる専用の道具を使い打
ち込みます。そこに竹を平行に2本、シュロ縄というひもを使い結び付けて



いきます。このシュロ縄は、シュロといわれている
植物からできており、黒く着色されて、水

でぬらし使います。水でぬらすのは、縄のズバリを

なくすると同時に、結び目のしまりを良くするためです。ただ問題なのは、素手で結ぶので、口
鼻から着色した色がにじみ出て手が黒くなります。石、けで洗っても落ちず、夜お風呂
で頭を洗っても落ちません。とてもカンコな汚れで困ってしまいます。

クイと竹を結び終ったら、サザンカを植え込んでいきます。根の玉の大きより
少し大き目の穴を掘り、バクと呼ばれる堆肥を混ぜた土を繩にうめも
どしていきます。そして再び支柱とサザンカをシュロ縄を使い結び付けていきま
す。結び方もいぼ結びと呼ばれる特別な結び方で、今まで使った事のない結び方な
ので上手になかなか結ぶ事ができません。何回も結んでいる所を見たり、教わ頂いた
りしてもなかなか覚えません。家でロープを使い練習をしたりしています。なせか結ぶ
ときも戻えたりすると頭の中がムカムカしてしまい出来なくなってしまう。とあ
く思義です。まだまだ他にも結び方があるので、どんどん覚えていきたいです。頭がバカ
かそう。

また来月お会いしましょう

吉村 龍一

新人職人 吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさんこんにちは。気温も上がり、夏が近くなってまいりました。暑さに負けず頑張ってください。さて今回は、伝統の玉石積みについて書きたいと思います。玉石というのは、木曾川の上流より川に流され石の角がけずれて丸くなった石の事を言います。そして玉石積みというのは、石の大きさが大きかたり、小さかたり、色々な形の物を積み上げていく方法です。玉石積みの技法として、くすし積み、あしり積み、亀甲積みなどがあり、最も高度な技術である亀甲積みは、この地域でも技術者はもうほとんどいないそうです。

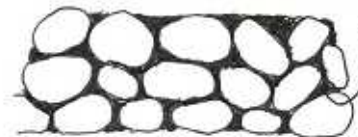


かろふりかろふりです。さらに強度を高めるために全ての石と石とが接するように積むことで何十年、何百年とくずれずに耐えている事は、とてもすごい事だと思います。先輩がたは、このわけのわからない石をどんどん積んで行ってしまうのでとても驚きました。それも1個/個の石がとても重く、仕事が終わる頃には腕がぼんぼんで肘も痛くなります。腰にも負担がかかり、重労働である事から、昔にくらべ石積みの仕事が減ったという事だけが一般的なコンクリートの壁に比べてはるかにコストも安く出来る上に年月を重ねる毎に味が出てくる玉石積みという技法を私も早く身に付けて、伝統の技を守って行きたいと思います。それにしてもすごい体力だなあ。私も体力を付けて頑張るぞ。

また来月お会いしましょう!! 吉村龍一

新人職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん、こんにちは。今回も前回に引き続き、玉石積みについて書きたいと思います。前は、玉石の積み方について書きましたが今回は、仕上げ方について書きます。頑張って積み終えた玉石には、石と石の間にすき間があり、そこにモルタルと呼ばれるセメントと砂を混ぜ合わせて作った物を詰め込んで行きます。つめ込む



時には、すき間めがけて投げ付けます。次に手ですり付けるように石と石の目にそってならし、余分なモルタルは、払い落としていきます。それからハケを使いきれいにハケばきをして完成です。このモルタルを詰め込むと石積みの強度も増し、石のすき間から雑草が生えてくるのを防いでくれます。この作業では、モルタルを丸めるため軍手をはめた手が水分によりどんどんふやけてきます。そしてモルタルを手を取る時、指の先に力を入れて取るので軍手の指先がやぶれて指と爪の間にモルタルがすり込み、深

爪をいた時のようにとても痛くなります。手も一

前になる頃には、皮が厚く、ゴツゴツとした



立派な職人の手になると思います。今回、玉石積みのお仕事をさせて頂き、あらためて伝統の重さを実感させて頂きました。とても奥の深い仕事だなあ。この仕事に携われると思うとワクワクします。頑張るぞお!!

それでは、また来月 お会いしましょう!!

吉村龍一

新人職人吉村の 見てばかり、聞いてばかり

みなさん、こんにちは。暑さの厳しい日々が続きます。体調をくずさないよう気を付けて下さいね。

ところで私が仲根さんの所でお世話になり始めてから、あっという間に1年が過ぎてしまいました。びっくりするぐらい早く時間が過ぎます。去年の今頃は、真夏の暑さの中、必死に仕事していた事を思い出します。今では、多少仕事の手順も分かるようになりました。仲根さんの教えのおかげです。ありがとうございます。これから先もまだまだ覚える事が多いほどあり色々な事が経験できるかと思うと嬉しく思います。早く1人前の職人になれるよう頑張ります。

さて今回は、ブロック積みの手について書きます。身内にブロックを積んでほしいと言われ自分1人でブロック積みをやってみました。ブロックを真ん中積みするために水糸と呼ばれる糸を張り、その糸にそって積むのですが、糸がたるんでいたり、草に引っかけたり、フェンスに引かかっていたりと糸が真ん中ではれない事がありブロックがいかんでしまいました。もう一度くずして積み直し、手間がかかり、時間もかかってしまいました。なかなか思うようにブロックを積む事が出来ず大変さが良くわかりました。それから腰への負担もかなりあり、夕方にはへたへたになっていました。先輩がたは、簡単そうに早く積んでいってしまうのでとても驚きです。今回自分で積んでみて色々反省する点も多々、勉強になりました。あと早くきれいに積めるよう頑張っていきます。

それではまた来月会いましょう!! 吉村龍一

新人職人吉村

感謝、感激、感涙です

皆様、お祝いのお言葉ありがとうございます。まだまだ職人として、かけ出しの私にとって心の支えとなります。なかなか思うように仕事が出来ずくじけろいな時や、疲れはててしまっている時などもあり、こうやって皆様が見守って下さっている事がなによりも心強いです。

普段から、お祝い事など縁のない私なので、これだけ多くの方々に祝って頂く事は初めてです。FAXでお祝いの言葉を下さる方、わざわざお手紙を下さる方、とてもびっくりしました。実際には会った事もないおな私の事を祝って下さる心の広さ。お祝いの言葉を読ませ頂けたら、目頭が熱くなります。

まだまだ半人前の私ですが、早く一人前の職人になれるお頑張りと、頑張ってください。皆様のお役に立つよう精進して行きたいと思っております。

それから、一流の職人として色々な事をご指導下さっている仲根さん、ありがとうございます。皆様の丁寧なご指導のおかげで少しづつではあると思いますが進歩させて頂いていると思っております。これから先もまだまだご指導は頂く事が山ほどあると思いますがよろしくお願ひします。皆様、本当にありがとうございます。私自身、すべての人に支えられている気がします。とても幸せ者です。ありがとうございます。

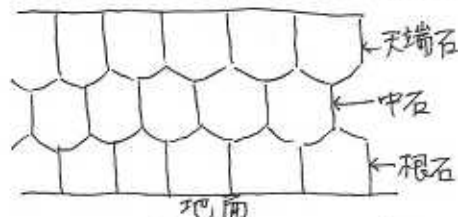
吉村龍一

新人職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん、こんにちは。季節も変わり、寒い日が続いています。カゼなど引かないよう気を付けて下さい。

さて今回は、玉石の亀甲積みについて書きます。現在では、この亀甲積み
の技術者も材料となる玉石も少なく、今回使用した玉石も仲根さん
の所で数十年間蓄えて来た石を使いました。昔は木曾川で舟頭さん
が川底から舟に引き上げて集めていたそうで形の良い物が沢山あった
ようですが、今では舟頭さんもいなくなり玉石を取り扱っている業者さんも良い
石を持っていないそうです。

そんな材料も手に入りづらい貴重な仕事の亀甲積みですが、まず材料
となる玉石を根石、中石、天端石と各部分に使いやすいよう選別
します。それから一番下の段と根石を



加工し作り据え付けます。次に中石を
最後に天端石を据え付けます。今回
は、2段積みから3段積みで2段積みでは、中石がありません。中石は、
六角形になるので手間もかかります。一番驚いた事は、玉石でもすべて形
が違い丸い部分どうしがピッタリと合うように加工する所で、まさに神業です。

こんなすごい仕事がなくなってしまうのは、悲しい事です。なんとか残して
行けるお私も技術を身につけるお頑張ります!!

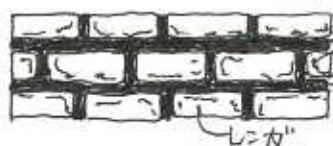
秋葉月お会いしましょう!!

吉村龍一

職人吉村の 見てびっくり、聞いてびっくり

みなさん こんにちは。今年はどうでしたか？ 私はあっという間に1年が過ぎさり驚きです。

さて今回は レンガ積みについて書きます。私自身、レンガは小さいし軽いので簡単に積める物だと思っていましたが、実際に積んでみると大変難しい事がわかりました。レンガはとても水分を吸収しやすい物で、セメントと砂と水を混ぜたモルタルと呼ばれる物を使い積むのですが、水分がすぐに吸収されてしまいレンガに付いたモルタルの汚れが取れなくなってしまいます。大慌てで「マジ



マジ やハケに水を含ませて、汚れを取りながら積まなければならず頭が混乱してしまうほどです。上手に積むには、セメント、水、砂の配合量や季節などで乾くスピードも違い色々な事を考慮しなければなりません。さらにレンガを水に浸し、水分を含ませモルタルからの水分吸収を減らしたり、モルタルの中に乾きを選らる物を混ぜ合わせるなど、色々な工夫がある事がわかりました。レンガ1つ積むにも奥が深い。早く積めるお

鬼強い、頑張るぞ！ それではまた来月 お会いしましょう！

今年も読んで頂きありがとうございます。

来年も良いお年をおむかえ下さい。

吉村龍一

新人職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさんこんにちは。おかしな天気が続きましたね。集中豪雨や雷など自然災害には十分気を付けて下さい。

さて今日は、サビ石積みについて書きます。サビ石というのは石の中に鉄の成分が含まれており、それがサビて色が出た石の事です。そのサビ石の中でも、恵那、蛭川産の物を使いました。石を取る場所により、石の性質や色合いなどが違います。



石を積み上げたのは、小牧市に貴舟神社という神社があり、その神社のお堂の土台部分です。とても古い神社のお堂です。

積み方は、ゲンと呼ばれる大きな槌でたたき割ったり、セトと呼ばれるとんカチとゴマスと呼ばれる道具を使い加工して、石と石がはみど



すき間をく合うようにして積みます。先輩方はとても簡単そうに積みますが私がやるとなかなか思うように石が割れくれず大変です。しかも何回もゲンセトを使うので握力がなくなり、自分の手をたたいてしまったりします。とても痛い。セトを使う時は、力を入れずにセトの重みだけで振るとい事ですが、腕力が不足し思いおに行きません。もと練習してムダな力が入らないようにしたいと思はす。それにしても職人は、色々な道具を上手に使ってます。私も使えるおに頑張る!!



秋期 おおはな!!

吉村龍一

職人 吉村の 見てびっくり 聞いてびっくり

あけまして おめでとうございませう。今年もよろしくお願ひを
して、今回は タマミズキという樹木の事について書きます。
ずいぶん前に ガーデンニュースでもご紹介があったと思ひますが
とてもめずらしい樹木で、すごくきれいな赤い小さな実のなる木です。
このタマミズキの原木を親方と一緒に山へ行き、山から取り出し採る方法
を教わりました。そしてこの原木に接木するので、樹木によっては雄株
と雌株があり、接木しないと実が付かない種類があります。このタマミズキ
も、雄株と雌株がある為、原木に雌株の枝を接木します。他にもイタドリ
や キュウイ、ソテツ、ヤマモモなど色々あり、今回の山取り方法の事
や接木のやり方などとても勉強になりました。

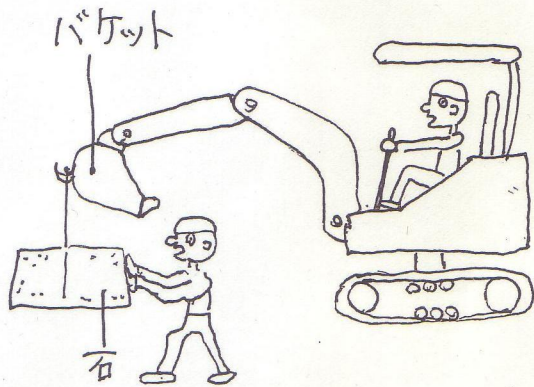
それにしても自然の力はすごし。このタマミズキの原木は山の急斜面
に生えており、しかも土砂崩れて他の植物がほとんど生えいな
い所に生えていました。鳥がタマミズキの実を食べて、その種がフコ
と一緒に山にまかれ、生え残りやすい所で生えている様です。人間の
様に色々な事を考えて生きて行くのと違い、何かに逆らうのではなく
ありのままの状態でも無理なく生きている姿には感動しました。
私も無理なく無駄なく生きてたならなあ。

ではまた来月お会いしましょう!! 吉村龍一

職人吉村の 見てびっくり聞いてびっくり

みなさん。こんにちは。草木が芽吹き始め、いよいよ春到来ですね。気分一新、不況に負けず頑張る、て行きましょう。

さて今回は、サビ石積みについて書きます。以前にも貴舟神社さんで同じ工事を行いました。今回は関の長良川ぞいにある鶺匠さんの所で行いました。貴舟神社さんの時よりさらに多くの量で積み上げた高さも一番高い所で3mぐらいになります。積み上げて行く時には、ショベルカーを使い高い所では物動式クレーン車を使用しました。ショベルカーの運転をやらせて頂きましたが、とても繊細な操作が必要となり



ます。吊り下げた石に意識を集中して急激な動きをしないよう操作レバーを動かします。レバーは5本付いて、それぞれ違う動きをするのですが、このレバーがこの動きをおるなど考えて

操作しているのは、早くなめらかな動きはできず、体で覚えて操作している様な感じ。さらに吊り下げた石のそばに人がいて作業するので帰る頃には、首と肩が凝ってほい目の周りの筋肉もピクピク痙攣している状態でとても大変でした。石積みが完成してみると、とても立派ですばらしい物になりました。私もどんどん色々な仕事に挑戦し、すばらしい物が作れるよう頑張ります。それではまた来月お会いしましょう!!

吉村龍一